

## 幼稚園・小学校低学年

### ■語る会に向けての検討の経緯■

幼稚園・小学校低学年部は9月より発足した。これは、各教科・領域の視点から幼小中一貫教育を考えていくことに加えて、幼稚園と小学校低学年部との接続カリキュラムにかかわる課題やニーズについて考えていく必要があるのではないかという理由によるものであった。

9月以降の分科会等の内容は次のようである。

#### 9月26日

- 9月26日(午前中)の、4歳児と小学校1年生との合同活動について
  - ・ 4歳児と1年生の子どもたちとの関わりの姿の実際について、話し合った。
  - ・ 1年生が、幼稚園の園庭に魅力を感じて遊んだことについて話題が出た。
- 1年生生活科「ようちえんにでかけよう」(11月～12月)の活動の構想について

#### 10月4日

- 幼稚園教員全員・小学校低学年部の教員全員で部会を行った。  
(三附属研修会の部会日は、各教科部会と重なっているため、幼稚園2名・小学校2名程度の小人数で実施している)
  - ・ 小学校入学直後の子どもたちの姿の実際や課題について話し合った。

#### 10月11日

- 幼稚園～小学校2年生の子どもたちについての、現状と課題について話し合った。
- 今後の4歳児と1年生との合同活動について計画を立てた。

#### 10月24日

- 幼稚園の子どもたちと小学校低学年の子どもたちとで、共通する現状や課題について確認していった。
  - ・ 夢中になれるものをもっているかどうか、また追究力という観点から
  - ・ 子どもの言動に体験が伴わないこと、体験を広げていくという観点から
  - ・ 友だちとの関わり、異年齢の友だちとの関わりの観点から
- 合同活動の実践の際、事前の打ち合わせ、事後の協議について丁寧にしていくことを確認した。(下記※のように実施し、それぞれの事前事後に打ち合わせや協議を行なった。)

#### 11月8日

- 幼稚園・低学年部のリード内容の最終検討を行なった。

- ※11月15日 1年生が幼稚園の園庭で遊ぶ(幼稚園児は降園済みでない時間帯)。  
11月16日 1年生が幼稚園の子どもたちの「自分でみつけた遊び」の様子を見る。  
11月22日 4歳児と1年生との合同活動「いっしょにあそぼう」1回目  
12月1日                    "                    「いっしょにあそぼう」2回目(語る会当日)

#### 12月15日

- 幼稚園と小学校低学年の接続について研究していく際、生活全般にかかわることを対象としていくため、幼稚園および低学年部の全教員で行なうべきである。
- 幼小合同活動についての4年間の計画を立てていく必要がある。
  - ・ 生活科の内容だけでなく、合科的な活動の内容として構成していく。

## 幼小中一貫教育に向けて（幼稚園・小学校低学年部）

### 1 現状と課題

本校園の子どもたちは、それぞれに学校生活・幼稚園生活に意欲や楽しみを感じながら過ごしているようであり、新しい活動や学習内容にも興味をもって取り組むことが多い。また、家族に愛情いっぱい育てられ、素直で明るく、周囲の大人に親しみをもって接する子どもが多い。

しかし一方で、幼稚園・小学校の子どもたちに共通する、次のような傾向や課題が見られる。

- 友だちを求め、友だちと一緒に活動することを喜ぶ。一方、特定のなかよしの友だちと一緒にいることで安心感をもととする子どもや、友だちの言動を気にする子どももいる。また、自分の気持ちを率直に言葉で伝えることができにくいなどの理由で、友だちとのかかわりがうまくつukれない子どももいる。
- 幼稚園や学校では、泥んこ遊びや運動的な遊びなど、戸外での遊びを好む子どもが多い。しかし、広範囲から通園・通学しているため地域での子ども同士のかかわりが少なく、家庭では、地域の友だちと戸外で十分に遊ぶという経験は少ない。
- 知的なことへの興味・関心が高いが、習い事で教わるなど、実体験を伴わずに子どもも保護者もわかつたつもりになっていることが少なくない。知識が体験と結びついていないため、本当にはわかっていなかったり、実際の生活の中で使うことができなかつたりすることがある。
- さまざまな体験を通じて、友だちと気持ちよく生活するためにどうしたらよいか判断しながら行動する態度を、各年齢の発達に応じて身につけていくが、一部、友だちの気持ちを受けとめながら行動する・場に応じた行動をするなどの態度が乏しい子どもも見られる。

また、幼稚園から小学校に入学した時点で、幼稚園の生活形態から小学校での一定時間決められたことをする生活への移行がうまくできず、学習に集中できない子どもや、自分の言いたいことは言うが人の話を最後まで静かに聞くことができにくい子どもも見られる。

### 2 これまでの幼稚園・小学校合同活動への取り組み

これまで、幼稚園・小学校それぞれにおいて、異学年のかかわりによって生み出される心情や態度・経験や学びの広がり・園や学校における子ども同士の活動や文化の継承に目を向けて、意図的に異学年集団での活動を設定し、かかわり合う機会を大切にしてきた。

平成15年度からは、さらに異学年での活動の枠組みを広げて、幼稚園4歳児・5歳児と小学校1年生・2年生・4年生・あおば学級（5・6年の複式）との組み合わせによる交流や合同活動を設定し、合同での研究を行ってきた（別紙資料「幼・小合同活動への取り組み」参照）。しかし、これらの活動の試みは各校園の担任の裁量に任されていて、カリキュラムの中に組み込まれて計画的に行われてきたものではなかった。また、教師同士の連携も事前・事後の研究において十分だとは言えなかった。このことをふまえて、今後は一貫教育カリキュラムの中に、どのように合同活動を位置づけていくかについて実践研究を重ねていきたい。

### 3 幼小中一貫教育に向けて大切にしたいこと

初等部前期の方針①「基本的な生活・学習習慣の定着を図るとともに、体験を重視した活動を通して、自ら探求していく基礎を培う」、方針②「集団的な活動や豊かな体験を通して、学校生活に適応する力を育む」および前頁1の「現状と課題」から、『幼稚園～小学校低学年の4年間を通して培いたい態度や力』を次のように設定した。

- 発達に応じた基本的な生活習慣を身につける。
- 自らいろいろなことに挑戦し、体験や学びを広げようとする。
- 夢中になって活動し、その中で自ら考えたり判断したりする。
- いろいろな人と一緒に活動する喜びを感じ、自ら人と関わろうとする。
- 互いに友だちのよさを受け入れ合い、協同して活動を創っていく。
- 友だちの思いや立場を大切にしながら、いろいろな表現方法で自分の思いを伝えていく。

#### <幼稚園と小学校低学年の連携の上で大切にしたいこと>

- (1) 幼稚園・小学校の子どもたちの生活や学びの特性について、具体的な子どもの姿を通して共通理解を図る。
- (2) 『幼稚園～小学校低学年の4年間に培いたい態度や力』についてさらに検討し、またそれらを培うために必要な体験や環境の構成・指導のあり方について探る。
- (3) 一人ひとりの子どものよさや発達の課題・成長の過程を、継続的にとらえていく姿勢をもち、とらえたものを子ども理解や支援に生かす。

#### <具体的な取り組み>

- 幼稚園教員・小学校教員合同の一貫教育についての研修会を行う。
- 互いの保育・授業を見合ったり、幼稚園と小学校の合同活動を実践したりする中から、幼小それぞれの教員の目で、具体的な子どもの姿をとらえ、発達特性や共通する点などについて話し合う。
- 幼稚園5歳児の後半の生活や小学校1年生4、5月の生活を、接続を考えて見直し、カリキュラム編成に生かしていく方向を探る。
- 就学前（5歳児後半）や入学後（1年生1学期）に行っている、一人ひとりの子どもの姿についての情報交換を、それ以前の姿やそれ以降の姿にまで広げてつなげていく。

## 4歳児さくら組 生活の構想

保育者 星野和美

### 1 第9期の生活の構想（4歳児9月下旬～1月上旬）

本学級は、4歳児19人の学級である。

〔 3歳児学級からの進級児 10人 〕  
〔 4歳児学級からの新入児 9人 〕

#### <最近の子どもたちの姿>

- ・ 周囲のいろいろな環境に興味をもったり、友だちの遊びに影響を受けたりしながら、いろいろな遊びを楽しんでいる。
- ・ 興味をもって繰り返し遊ぶ姿は多いが、具体的なめあてをもって続けて遊ぼうとする姿や、できないことに挑んでいこうとする姿はまだ少ない。
- ・ 数人の友だちで遊びを楽しむ姿が多いが、一部、自分と相手の二人で遊ぶことにこだわったり、一人での動きが比較的多い子どもも見られる。
- ・ 年度当初は、進級児同士、新入児同士のかかわりが多かったが、次第に親しみをもって入り混じって遊んでいくようになってきた。
- ・ 戸外での遊びの楽しさを次第に味わうようになってきているが、日により、子どもにより室内での遊びに向かうことが多い場合もある。

#### <第9期の生活のねらい>

- 自分の願いやめあてをもち、みつけた遊びを続けていこうとする。
- 自分の力を試したり、友だちのみつけた遊びに触発されたりしながら、遊びの内容を広げていく。
- 身近な自然の環境の変化に興味をもつ。
- 数人の友だちとイメージを出し合ったりイメージを共有したりして遊ぶ。
- トラブルなどの場面を通して、友だちの気持ちを受けとめたり、自分たちで問題を解決しようとしたりする。
- 同年齢・異年齢のいろいろな友だちに関心を向け、遊びの場に参加するなどして親しむ。

#### 11月から12月の生活の中で経験させたい「生活の内容」 (主なもの)

- ・ 秋～初冬の自然を感じながら遊ぶ  
(木の実や落葉で遊ぶ、風で遊ぶ など)
- ・ 自分の力を試したり、挑んだりして遊ぶ  
(雲梯、なわとび など)
- ・ 友だちと一緒に運動的なゲームをする  
(おにごっこ、ボール遊び など)
- ・ 友だちとイメージのあるごっこ遊びをする  
(お店ごっこ、「子どもまつり」の活動 など)
- ・ 同年齢・異年齢のいろいろな友だちと関わって遊ぶ  
(友だちを広げる、他の学級や1年生の人と遊ぶ)

#### <第9期の保育にあたって大切にしたいこと：環境の構成・保育者の援助>

- \* 一人ひとりの子どもの表現やみつけた遊びを、その子らしさとして大切に認め、その中での子どもの願いやめあてを価値づけたり、周囲の友だちと知らせ合う場をもったりして、子どもが自信をもって活動を続けていくよう支えていく。
- \* 友だちとの遊びの中で、それぞれの子どもが自分の思いをのびのびと表わして友だちとかかわっていきけるよう、助言・援助していく。また、トラブルなどの場面では、どうしたら気持ちよく一緒に遊ぶことができるか、お互いに考えたり感じたりできるような助言・援助に努める。
- \* 学級のいろいろな友だちの遊びのおもしろさを感じたり、学級や学年の友だちと一緒に活動する楽しさを味わったり、異年齢の友だちの活動に関心を寄せたりする気持ちや場を大切にし、周囲の環境への興味・関心を広げたり新たな活動への意欲をもったりできるよう、働きかけていく。

## 2 「1年生のおにいさん、おねえさんといっしょにあそぼう」の活動について

### (1) 活動の構想にあたって

#### ① 周囲の人への親しみを広げつつある子どもたち

8期(4歳児6月中旬～9月中旬)までの子どもたちは、二人から数人のなかよしの友だちと一緒にいることで安心して遊ぶ姿が多かった。9期に入っても同様な友だちとのかかわりが中心であるが、それに加えて、進級児と新入児が親しみをもって入り混じって遊んでいく姿や、どんぐりを拾って「さくら組のみんなにあげたい」と言うなど学級のみんなへの思いを表す姿、5歳児の「サッカーの遊び」に興味をもって加わるなど異年齢の友だちとのかかわる姿等、周囲の人への親しみを広げつつある。また、幼稚園のみんなで取り組んだ「運動会の活動」(9月下旬～10月上旬)や「子どもまつり」の活動(11月上旬～中旬)の中でも、他学級(同年齢、異年齢)の友だちとのかかわりを大切に保育していった。このように周囲の人への親しみを広げつつある子どもたちに、「1年生のおにいさん、おねえさん」といっしょにあそぶ場を設け、さらに人と出会うことの喜びを感じたり、新しい遊びや遊び方に触れる機会をもたせたりしたい。

#### ② 「1年生」とのかかわりの中で経験できると思われること

2学年上の「1年生」は、年齢差の少ない「5歳児」に対するよりも余裕をもって4歳児と接してることが予想される。一方、中学年・高学年の小学生と比べ、「1年生」は、4歳児と同様な遊びを自分たちも楽しめる年齢ではないかと思われる。

そのため、4歳児は、「おにいさん、おねえさん」に受け入れてもらう心地よさを感じながら一緒に遊ぶ楽しさを共有することができるのではないかと思われる。また、現在している遊びを「1年生」と一緒にすることで遊び方の工夫を学んだり、今まで経験していない新しい遊びを、保育者が伝えるよりも自然な気持ちで受け入れたりしていくことができるのではないかと思われる。

#### ③ 「1年生」との合同活動にあたって

○ 「1年生」の誘いかけに応じる、興味のある遊びに自分で参加するなど、「1年生」と自然にかかわっていくことを大切に、今回は固定のメンバーのペアを組んだり小グループを設けたりはしない。子どもによっては、「1年生」とすぐには一緒に遊び出せない場合も予想されるが、どのような思いでいるかを捉え、子どもの様子に応じて、興味のもとような遊びの場に保育者が一緒に行き、なかよしの友だちのいる場に誘っていくなどして働きかけていく。

○ 「1年生に受け入れてもらう」心地よさや楽しさを感じる経験と共に、4歳児なりに自分の思いや考えを表したり4歳児なりの経験や力を発揮したりして「1年生といっしょに遊んでいく」経験となるように支えていく。子どもたちの様子に応じ、4歳児が自分の思いを伝えようとする援助をしたり、「1年生」に4歳児の経験やできることを伝えたりしていく。

### (2) 予想される展開

月日	活動内容	予想される子どもの姿
11/20(月)～11/21(火)	1年生が幼稚園に来てくれることについて聞き、期待感をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>一緒に遊ぶことに期待感をもつ。</li> <li>一緒にやりたい遊びのイメージをもつ。</li> </ul>
11/22(水)	1年1組の人と一緒に遊ぶ <1回目>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生と一緒にいることを喜び、一緒に活動する。</li> <li>1年生の始めた遊びに興味をもって、参加していく。</li> <li>自分のやりたい遊びを1年生に知らせる。</li> <li>自分のやりたい遊びをする。</li> </ul>
11/24(金)～11/30(木)	1年生がもう一度来てくれることを聞き、自分の願いやめあてをもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>「一緒に遊んだ人とまた遊びたい」 ・「おもしろかったので、また同じ遊びがしたい」 ・「〇〇の遊びを今度は一緒にしたい」</li> <li>「一緒に遊ぶときの準備をするよ」 など</li> </ul>
12/1(金) <本時>	1年1組の人と一緒に遊ぶ <2回目>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回目に遊んだ人をさがしたり、誘われたりして遊ぶ。</li> <li>1回目におもしろかった遊びのところへ行って遊ぶ。</li> <li>新しい遊びに参加したり、新しいかかわりで1年生と遊ぶ。</li> <li>自分のやりたい遊びを1年生に伝えて、誘う。 など</li> </ul>
12/4(火)～	1年生と遊んだ経験を思い出したり自分たちの遊びに生かしていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ遊びを自分たちで再現する ・印象的なことを自分たちの遊びに取り入れる</li> <li>1年生への思いを話したり描いたりする</li> </ul>

### 3 本日の生活

※具体的な活動への取り組みについては、当日配布の資料参照

#### (1) 本日のねらい

- 「1年生のおにいさん、おねえさん」に親しみの気持ちを持ち、一緒に活動する楽しさや受け入れてもらう心地よさを感じる。
- 「1年生のおにいさん、おねえさん」の遊びに興味をもって参加したり、自分の思いや考えを伝えたりしながら一緒に遊ぶ。

※< >…予想される子どもの姿 [ ]…具体的な環境の構成・保育者の援助

#### (2) 予想される生活の展開

8:45 登園

9:00 シール貼り

- 一人ひとりとの朝の出会いの場として、ていねいに迎え入れていく。
- 今日の生活への意欲を感じ取り、ためらいがちな様子があれば気持ちを聞いていく。
- 今日は短時間の「自分でみつけた遊び」の後、片付けとなるが、1年生と一緒に遊ぶことに期待感をもたせながら集まりの場へ気持ちを切り替えさせていく。

9:30

1年生のおにいさん、おねえさんと  
いっしょにあそぼう

#### ① 1年生を迎える

- 1年生がやってくるまでのひととき、「早く会いたいな」、「今日はどんなふうに遊ぼうかな」と楽しみに待てるような雰囲気にする。
- 1年生と一緒に手遊びなどをして気持ちをほぐしたり、今日の遊びについて話を聞いたりして、1年生と一緒に遊びたい気持ちに向けていく。
- 普段とちがう雰囲気に不安そうな表情の子どものいないか気を配り、子どもの様子に応じて「やりたい遊びをすればいいよ」など安心できる言葉をかけていく。

#### ② 1年生と一緒に自由に遊ぶ

- < 1年生に誘われて、一緒に行動する >                      < 1年生の始めた遊びに興味をもって参加する >
- < 1回目になかよくなった1年生をさがす >                      < 自分のやりたい遊びを1年生に伝える >
- < 1年生と一緒に遊ぶことをためらう >                      < 自分のやりたい遊びをする >
- < 砂場や築山で遊ぶ > < 園庭の固定遊具で遊ぶ > < おにごっこやサッカーなど運動的なゲームをする >
- < 落葉を集めて遊ぶ > < ごっこ遊び > < なわとびや長縄での遊びをする > < 遊ぶものを作る > など

- 1年生と一緒に遊び出せない子どもがいれば、どのような思いでいるのかを捉えることに努め、子どもの様子に応じて、興味をもてそうな遊びの場やなかよしの友だちがいる場に誘ったり、1年生に誘ってくれるよう依頼したりする。
- 子どもたちが自ら遊びを選び、進めていくことを大切にしますが、1年生とさくら組とのかわりが少ないと思われる遊びの場合は、お互いの思いや力が出し合える遊び方になるように助言していく。
- 1年生のやさしさや力をさくら組の子どもたちと一緒に認めていく発言に努め、またそれを1年生にも伝えていく。

#### ③ 片付け — { 1年生と力を合わせて片付ける雰囲気を大切にする }

#### ④ 今日の活動をふりかえる

- 今日の感想を話し合う中で、1年生にやさしくしてもらってうれしかったこと、1年生となかよくなったこと、自分たちにはまだない力や考えがあってすごいと感じたことなどが出れば、みんなにより印象づけるようにし、1年生への親しみやあこがれの気持ちにつながるようにする。

10:20 降園準備

終わりの会

10:40 降園

- 1年生と一緒に場でまだ話せなかった子どもの思いをこの場で聞き取っていく。1年生に伝えたい内容であれば、伝える方法を一緒に考えていく。
- 「もっと、〇〇の遊びがしたかった」という気持ちが出れば、明日以降自分たちだけでやってみようかと誘いかけていく。

# 小学1年1組 生活科学習指導案

指導者 赤木 寛子

## 1 単元名 いっしょにあそぼう

### 2 単元の構想

(1) 4月に、様々な幼稚園や保育園から入学してきた1年生の子どもたち。1学期のくらしの中で、自分の力で登下校することや小学校でのくらしのリズムにも慣れ、楽しく学校生活を送っている。しかし1学期にはまだ、同じ幼稚園出身の子同士で遊ぶことが多い子や友だちの中に入っていきにくい子もいた。

そこで2学期に入ってから、学級のめあての一つを「友だちをふやそう」というめあてにし、今までかかわりの少なかった友だちとも、多くかかわって遊べるようにはたらきかけてきた。生活科の「あきのきちあそびをしよう」の学習では、同じ場所を選んだ友だちといっしょに活動するなど、学習でもグループの活動を意識して取り入れるようにした。その結果、子どもたちの人間関係に広がりが見られるようになってきている。また異学年とも、全校活動や掃除などの様々な活動の中でかかわる機会が多くある。しかし、1年生は上学年にかわいがってもらう存在であり、本学級の子ども達は家でも未っ子や一人っ子が多いため、年下の子どもたちと触れ合う経験は少ない。

一方、本校と附属幼稚園は隣接しており、附属幼稚園出身の子も多い。また、校庭などから見える幼稚園の園庭は魅力的であり、1年生の子どもたちが興味深げにながめている姿もよく見られた。しかしこれまで、附属幼稚園出身の子どもたちであっても、幼稚園に出かけることはほとんどなく、附属幼稚園以外の幼稚園や保育園出身の子どもたちにとっては、近くて遠い存在であった。そこで9月の終わり頃に、幼稚園の許可を得て、幼稚園の園庭で遊ぶ機会をつくってみた。

あのね。きょう、ふぞくようちえんのおともだちとあそんだよ。さいしょは、ぶらんこをしてあそんだよ。Cちゃんがぶらんこにのって、わたしとDちゃんが、ぶらんこをおしてあげたよ。

A児

きょう、ふぞくようちえんであそびました。わたしたちがちっちゃいころ、こんなだったのかあーとおもいました。せがちちゃくてとてもかわいかったです。わたしもおおきくなったんだなーとおもいました。またあそびたいなーとおもいました。

B児

これは、附属幼稚園の園庭で遊んだあとの、子どもたちの日記である。遊ぶことが目的であったが、年下の友だちといっしょに遊べたことを嬉しそうに報告する姿や、自分の成長に気づく姿などが見られた。

(2) 本単元では、このような子どもたちの実態をもとに、附属幼稚園に出かけ、附属幼稚園を探検したり、幼稚園の子どもたちといっしょに遊んだりする合同活動の場を設定する。この活動を通して、隣にある幼稚園や保育園の子どもたちに親しみをもつとともに、年齢の小さな幼稚園の子どもたちのことも考えながら、既存の経験や新たな気づきを生かして、幼稚園の子どもたちといっしょに楽しく遊ぶことができるようにしたい。あわせてこの活動は、幼稚園の子どもたちと今の自分を比べることで、自分の成長を感じる上でも大きな意味があると考えられる。

附属幼稚園は、隣接していて繰り返し合同活動を設定することができること、小学生もいっしょに遊べる広さや遊びを工夫できる自然物、遊具などの環境が整っていることなどの利点がある。この利点を生かして、1年生と幼稚園児が幼稚園の施設を使って、繰り返しいっしょに遊ぶ中でねらいが達成できるようにしていきたい。

また今回の合同活動は、1年生と4歳児で行う。これは、少し年齢差があるほうが、より1年生から声をかけたり遊びを提案したりしやすいのではないかと考えたからである。

(3) 指導にあたっては、次の点を大切にしながら、合同活動の場を設定していく。

- 小学生が一方的に遊びを考え教えるのではなく、互いに対等な立場で、いっしょにできる遊びを提案したり相談したりできるようにする。
- 誰とでも自由に遊べるようにし、自然に自分から声をかけ合って遊びを始めるなどの、自発的で自然なコミュニケーションをとっていくことができるようにする。
- 合同活動の前後には、子どもたちがめあてや見通しをもって取り組んだり、自分自身ができるようになったことや次ががんばることなどを確かめることができるように、気づいたことを学習カードにかいたり、話し合ったりする場を設定する。

このような考えを基本にもちながら、単元の中で、附属幼稚園に出かける場を4回設定する。1回目は、附属幼稚園の様子を知り、自分たちも遊んでみるための時間、2回目は4歳児の遊びの様子を知る時間、そして、3、4回目はいっしょに遊ぶ時間である。このように繰り返し、幼稚園に出かける活動を行うことで、子どもたちが活動の見通しやめあてをもち、できたことや次への課題を確かめながら学習に取り組めるようにしたい。

また4回目の合同活動が終わった後には、いっしょに遊んだ中で見つけたことをもとに、「ようちえんすごろく」をつくる活動を設定し、楽しかったことやがんばったことを確かめ、さらにそれで遊ぶことを通して、一人ひとりの気づきを全体に広げていきたい。

本時は、第2次5、6時間目にあたる。幼稚園の子どもたちといっしょに遊ぶ2回目の時間である。前回、いっしょに遊んだときの経験を生かし、前時で考えためあてを意識しながら、より積極的にかかわりをもったり遊びを工夫したりしながら遊ぶ姿を期待している。教師は、認めるはたらきかけを中心にしながら、かかわっていきにくい子どもや遊びが見つからない子どもには、そのわけを尋ね原因をさぐって、活動が進むようにする。また、積極的にかかわりながら楽しく遊ぶ姿やめあてに向かう姿をしっかりととらえ、遊ぶ活動後のふり返りに生かしていけるようにしたい。

### 3 活動展開計画・・・全13時間（本時9・10/13）

次	主な学習活動	時	具体的な学習活動
第1次	附属幼稚園探検に出かけよう	1 2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属幼稚園に出かけて、幼稚園の施設を知ったり自分達が遊んでみたりする。</li> <li>・附属幼稚園に出かけて、幼稚園の子どもたちが遊んでいる様子を見る。</li> <li>・見つけたおもしろそうな遊びや心配なことを「見つけたよカード」にかく。</li> <li>・「見つけたよカード」をもとに、いっしょにあそぶときに心配なことについて、話し合い、「たのしくいっしょにあそぶさくせん」や自分が幼稚園のともだちといっしょにしてみたい遊びを考える。</li> </ul>
第2次	幼稚園に遊びに行こう	5・6 7 8 ⑨・⑩ (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属幼稚園に遊びに行き、幼稚園の子どもたちといっしょに遊び、楽しかったことや困ったことを「見つけたよカード」にかく。</li> <li>・「見つけたよカード」をもとに話し合い、「もっとたのしくいっしょにあそぶさくせん」を見つける。</li> <li>・みんなで見つけた「もっとたのしくいっしょにあそぶさくせん」をもとに、自分ががんばりたいことやもっとしてみたい遊びを考える。</li> <li>・話し合ったことをもとに、もっと楽しくいっしょに遊ぶ。</li> <li>・遊んだことをふり返り、たのしかったことやがんばったことなどを確かめる。</li> </ul>
第3次	「ふぞくようちえんすごろく」をつくろう	11 12 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いっしょに遊ぶ活動をふり返り、楽しかったことやできるようになったことなどを見つける。</li> <li>・「ようちえんすごろく」をつくる。</li> <li>・学級の友だちとすごろくで遊ぶ。</li> </ul>

#### 4 本時の学習

##### (1) ねらい

「もっとたのしくあそぶさくせん」を使ったり、自分で接し方や遊び方を工夫したりして、幼稚園の子どもたちともっと楽しく遊ぶことができる。

##### (2) 展開

場所	学習場面と主な活動	教師の願いとはたらきかけ
一の教室	<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>○前時にまとめた「もっとたのしくいっしょにあそぶさくせん」を見る。</p> <p>○全体のめあてと、一人ひとりのめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ようちえんのともだちと          もっとたのしくあそぼう          ～「もっとたのしく          いっしょにあそぶさくせん」          をつかって～          ～じぶんでくふうして～</p> </div>	<p>・「たのしくあそぶこつ」をまとめたものを提示するとともに、一人ひとりのめあてを書いた学習カードを配って、一人ひとりが自分のめあてを確かめることができるようにする。</p>
幼稚園	<p>2 幼稚園に行き、さくら組の友だちといっしょに遊ぶ。</p> <p>○全員でできる遊びをする。</p> <p>○本時の活動の約束を確かめる。</p> <p>○園庭や遊戯室で自由に遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然物をつかって</li> <li>・遊具で</li> <li>・遊戯室で</li> <li>・さくら組のお部屋で</li> </ul> <p>【取り組みの様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園児と積極的にかかわり、楽しい遊びも見ついている子</li> <li>・積極的にかかわっているが、遊びが見つからない子</li> <li>・幼稚園児といっしょにいて遊びは見ついているが、自分中心に活動している子</li> <li>・1年生だけで遊んでいる子</li> </ul> <p>○片づけをする。</p> <p>○楽しかったことを発表する。</p>	<p>・まず、学級の全員でや手あそびなどをして、雰囲気などをよやかにしたり「いっしょにあそぶ」という意識をもたせたりしたい。</p> <p>・安全面、活動時間、場所などを書いたものを見せて確認する。</p> <p>・子どもたちのかかわり方やつぶやきの中から、「幼稚園のことかかわろうとするもの」「成長を感じているもの」をとらえ、ふり返りで生かすようにする。</p> <p>→遊ぶ様子を見守る。</p> <p>→理由を尋ねるなどして一人ひとりの思いや願いをさぐりながら、提案などのはたらきかけを中心に行う。</p> <p>→教師が声をかけ、幼稚園の子の気持ちを考えることができるようにする。</p> <p>→理由を尋ねるとともに、本時のめあてを確認し、めあてに向かって活動できるように声がけをする。</p> <p>・片づけが始まらない場合は、声をかける。</p> <p>・小学生、幼稚園児が、互いに楽しかったことを発表しあい、よさを認め合えるようにしたい。</p>
一の教室	<p>3 本時の活動をふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しかったことやがんばったことについて発表し、「見つけたよカード」にかく。</li> <li>・学習カードにふりかえりを書く。</li> </ul>	<p>・めあてを書いた学習カードに続けて書くことで、自分のめあてを意識しながら書かせたい。</p>

＜資料＞ 幼稚園4歳児・小学校1年生との合同活動「いっしょにあそぼう」の中で  
期待する姿

活動の構想・展開計画は、  
「4歳児さくら組 生活の構想」  
「1年1組 生活科学習活動案」  
に詳述

幼・小共通に期待する姿

- 秋から冬に移り変わる園庭の自然や幼稚園の環境の中で、見つけたもの（自然物、場所、風など）を生かして遊んだり、気づいたことを伝え合ったりする。
- 異学年の関わりの中で、自分の気持ちを表したり、相手のよさに気づいたりして、互いに親しみや共感をもつ。
- 自分の経験や考えを発揮したり、異学年の友だちの発想や考えを受けとめたりしながら、経験や学びを広げたり深めたりする。

幼稚園4歳児に期待する姿

- 1年生と一緒に遊ぶことを楽しみ、いろいろな遊びや遊び方への興味・関心を広げていく。
- 1年生の遊びに興味をもち、触発されて自分もやってみたり、自分の遊びを工夫したりする。
- 自分よりも年上の友だちとふれ合い、1年生のやさしさを感じたり、小学校へのあこがれや期待感をもつ。

小学校1年生に期待する姿

- 4歳児との関わりの中で、既存の経験を生かしたり、幼稚園の環境への新たな気づきや発見したことを生かしたりして遊ぶ。
- 自分よりも小さな友だちに親しみや共感をもち、相手に分かるように伝えようとしたり、思いやりの気持ちをもって接していこうとしたりする気持ちや態度をもつ。
- 幼稚園の頃の生活や遊びをふりかえり、自分の成長を感じたり、自分の能力やよさを発見したり発揮したりする。

## ■分科会の整理と総括■

- 1 リードをもとに、本校園の子どもの現状と課題および「幼稚園・小学校低学年で培いたい態度や力」について説明（星野和美）
- 2 本日の合同活動に至るまでの経過説明（赤木寛子）
- 3 本日の合同活動について自評（赤木、星野）
- 4、協議

### ○ 幼稚園（4歳児）と小学校（1年生）の今回の合同活動のねらいにかかわって

- ・ [小学校：赤木] 年下の子どもとどのように関わっていくかが一つの視点であり、その関わりの中で自分の成長を感じてほしいと願っていた。幼稚園児にやさしくしてあげる、自分から声をかけるなど、できたこと、がんばったことを出し合いながら、「いっしょにあそぶ」作戦を立てるようにした。楽しく遊べたことに加え、一緒に遊べなかった子どもについてもがんばったことを認めていきたい。
- ・ [幼稚園：星野] 幼稚園内でいろいろな人（学級内、他学級、他学年）とのかかわりを広げつつある子どもたちであり、1年生と一緒に遊ぶことで、人と出会うことの喜びを感じたり遊びの工夫をしたりすることを願っていた。
- ・ [大学：田中昭夫] 今回の合同活動を1回きりのものにとらえず、小学生に触発されたことを、今後の子どもたちの生活にどう生かしていくかが大切である。
- ・ [参会者]『幼稚園～低学年の4年間を通して培いたい態度や力』として6点あげられているが、その中でも「自ら人と関わろうとする」ことが大切と考える。今の子どもたちはそういう点が弱い。合同活動の中で、初めはどう関わっていいかわからないぎこちなさやドキドキする体験をしたことは意味があると思う。

### ○ 合同活動実践の際の環境の構成、配慮について

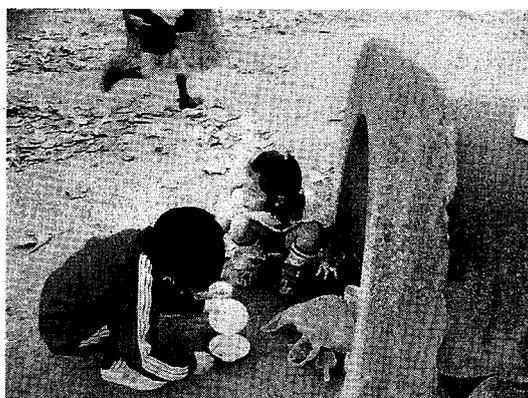
- ・ [参会者] 幼稚園側のねらいに「一緒に活動する楽しさや受け入れてもらう心地よさを感じる」とあるが、幼稚園の場で行なうということでの環境の構成上の工夫・配慮はどのようであったか。幼稚園児にとって遊びは生活そのものであり、遊びこむほど聖域化し、他人には入ってほしくないものとなるが、それをオープンにすることで心の育ちがある。
- ・ [大学：山下政俊] 遊びにおける主体と客体の相互関係の構成の問題として受け止めたい。幼小合同活動としては㊦主体・㊧客体と思われるが、1年生が幼稚園児の遊びにうまくかかわることで㊦主体・㊧客体という関わりも生まれる。相矛盾する2つの関係を経験することにより、関わりも見通しも子どもに広がり深まっていくのではないか。
- ・ [幼稚園：野津] 合同活動の前の「ヤキイモじゃんけん」のとき、回数を重ねると自分から4歳児に向かう1年生が増えていった。音楽の遊びは心をほぐし合うことができる。もっと取り入れていくとよい。

<12月1日 4歳児と小学校1年生との合同活動の様子>

「ヤキイモじゃんけん」の遊びをする4歳児と1年生



「いっしょにあそぼう」と誘い合って遊びだした4歳児と1年生



一緒に遊んで親しくなった1年生の顔写真を見る4歳児